

外国語・外国語活動研究部

I 研究主題

「交流の活性化を図るコミュニケーション活動の工夫」

II 主題設定の理由

文部科学省では2020年までに、小学校外国語活動の早期化、教科化を実施する方向で「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」を立ち上げ、全国各地での取組を推進している。今年度、所沢市ではこの事業の取組の1つである「英語指導力強化推進事業」に協力しており、本研究においても研修協力校を中心に、小学校外国語活動における適切な指導と評価の工夫に重点を置き、研究を進めることとした。

また、今年度の研究員研究のベースとなる「言語活動から主体的な学習を導く」研修会から学んだことについても着目し、研究の柱となる主題について検討した。

1つ目は「学びの文脈化」。1時間の授業、単元、指導の流れを明確にし、児童生徒の活動をしやすくさせる。また、指示を明確にし、簡素化することで教師の発話を減少させ、児童生徒の活動を増大させる。2つ目は「交流の活性化」。なんとなく活動をさせずに、意図を持って活動させることで、児童生徒がお互いに認め合い、指摘し合い、向上し合う集団作りを目指す。3つ目は「学びの自覚化」。児童生徒が学んだことを「できた!」と自覚させ、考えを広げ、深めさせる。以上の3点から、主に外国語活動に求められる「言語活動」を「英語を使う必然性に気付く活動」、「言葉で人とつながることが楽しいと感じられる活動」と捉え、このような言語活動＝コミュニケーション活動を積み重ねることにより、児童生徒がお互いに認め合い、お互いの考えや気持ちを伝え合う能力を養い、高めることにつながると考え、本研究主題を設定した。

III 研究の内容

1 研究員の所属校の小学校外国語活動の現状及び課題の把握

小手指中学区である上新井小学校と小手指小学校には隔週火曜日の午前中に中学校教諭が授業参観を行い、各校における現状及び課題を把握した。

(1) 指導面における現状

外国語活動支援員中心の授業が多く、担任の授業への関わりが少ない傾向にある。学習指導要領が改訂され5年目を迎え、担任が授業をする環境整備の一つである所沢市独自の支援員制度は、担任の負担軽減に役立っている。しかし、指導案作成から指導まで支援員に頼りがちの学校も中にはあるのが現状である。また、外国語活動主任が指導案を作成しても、支援員や他の担任との打ち合わせ時間が取れず、指導内容について共通理解を図る難しさもある。

(2) 授業の内容における現状

展開やまとめの活動として取り入れているコミュニケーション活動の内容が、ただの楽しいゲームや、ノルマを達成するだけの活動になりがちである。実際に英語を使っているコミュニケーション活動は児童生徒にとっては楽しい活動ではあるが、英語を介して人とつながることが楽しいと感じるコミュニケーション活動には必ずしもならない場合がある。また、1単元約4時間で指導計画を作成するが、1時間の授業の中にインプットとアウトプットの両方を盛り込む1時間完結型授業になっており、児童生徒のインプット量についてはまだ改善が必要である。

2 研究の方向性

現状の把握から見えてきた課題を解決するために、また、今後、外国語活動が早期化・教科化になり、担任が授業を進めることが必須となることを見据え、以下の3点を研究の柱と捉え、研究を進めることとした。

(1) 「見通し」：指導の流れを明確にした指導案の作成

単元の目標を児童生徒に達成させるために、それぞれの授業の内容、手順、方法、時間配分等をどうするか？どんな活動をどこにどう位置付けるか、という指導の流れを明確にし、指導案を作成する必要がある。また、「教科化」を見据え、どの担任が見ても、授業のイメージを持ちやすくなるよう工夫しなければならない。

(2) 「目的の明確化」：言葉で人とつながることが楽しいと感じる活動の工夫

活動の目的及び英語で活動する必然性を明確にし、「英語を使って人と交流を深めたい」児童生徒が級友と生き生きと交流できる活動を工夫する。そのためには場面を設定する際に、学級の実態や児童生徒の興味関心を把握し、他教科での学習内容と関連付け、児童生徒が活動しやすいようにすることが必要と考える。また、児童生徒の活動時間を十分確保するために、簡潔で明確な指示でスムーズに活動できるよう内容を工夫するべきである。

(3) 「振り返り」：児童生徒の学びに寄り添うための工夫

児童生徒に授業や単元を通して「どのように学ぶのか」「何ができるようになるのか」を理解させ、見通しを持たせ、ゴールを明確にすることで、児童生徒の授業への興味や関心、意欲が高まると考えられている。また、授業や単元を通して児童生徒自身が「できた」と実感させることも次の授業や単元への興味や関心、意欲につながる。学びを自覚させるために「振り返りカード」や「自己評価カード」の内容を工夫すべきと考える。

IV 実践例 ～研究授業実施及び検証～

1 第5学年 外国語活動学習指導案

(1) 単元名 What do you like? (Hi, friends! Lesson 5)

(2) 単元の目標

- ①好きなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしようとする。
- ②色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。
- ③日本語と英語の音の違いに気付く。

(3) 単元の指導計画・評価計画 (本時4/4)・・・省略

(4) 本時の学習指導 (本時4/4)

- ①目標 好きなものについて、尋ねたり答えたりできる。
- ②評価 好きなものについて、積極的に友達に尋ねたり、質問に答えたりしている。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

③展開

T：担任

S：児童

過程 (分)	児童の活動	担任の活動	○指導上の留意点 ◎教材・教具 ◆評価
挨拶 (2)	・あいさつをする	・あいさつをする。	○元気よくあいさつをする。
導入 (10)	・DVDに合わせてチャンツを行う。 ・前時の内容を思い出す。(What color do	・児童と一緒に行う。 ・児童に What color do you like?などと聞	◎DVD (Hi Friends! [What color do you like?])

	<p>you like? What shape do you like?)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時に作った T シャツを使って、クイズを行う。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「見通し」</p> <p>授業のイメージがしやすいよう、例文ややり方を明文化した指導案</p> </div>	<p>き、前時の内容を想起させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ルールの説明、クイズを出題する。 ①黒板に前時に作った T シャツを 4 枚貼る。 ②担任が 4 枚の中から児童に内緒で 1 枚、気に入ったものを決める。 ③児童にその T シャツの特徴がわかる質問をさせる。(What color do you like?, What shape do you like?) ④児童が担任の選んだ服を当てる。 	<p>○慣れたら速さを変える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【T-shirt quiz の例】</p> <p>S: What color do you like? T: I like ~.</p> <p>S: What shape do you like? T: I like ~.</p> <p>S: (How many ~?) T: (two. e.t.c)</p> </div>
	<ul style="list-style-type: none"> めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>めあて 友だちのプロフィールカードを作ろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> プロフィールカードを受け取る。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「目的の明確化」</p> <p>ただ、インタビューしあうのではなく、目的をもって外国語で交流できる活動の工夫。</p> <p>特に、各単元でのコミュニケーション能力の素地を養うことを目標とした授業では、英語で活動する必然性を考えた。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 今日のめあてを伝える。 プロフィールカードを配布し、プロフィールカードを使って、Who am I?ゲームをすることを伝える。 	<p>○活動に目的を持たせるために、プロフィールカード作りと Who am I? をすることを伝える。</p>
<p>展開 (28)</p>	<ul style="list-style-type: none"> What color do you like? と What shape do you like? の言い方を練習する。 What ~ do you like? の言い方を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> What color do you like? と What shape do you like? を復習させる。 色や形以外に聞ける好きなことを引き出し、練習させる。 ワークシートに書いてある絵のカードを黒板に貼って練習させる。 	<p>○一斉だけでなく、列ごとやグループごとなど、練習が単調にならないようにする。</p> <p>○color と shape 以外の既習事項を想起させる。</p> <p>例 What sport do you like? What animal do you like? What fruit do you like?</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 担任のスキットを見る。 二人一組になり、何が好きかインタビューしあって友だちのプロフィールカードを作る。 <ul style="list-style-type: none"> できたカードを提出する。 	<p>児童 1 人 (B) とスキットを見せる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>A: Hello. B: Hello. A: What fruit do you like? B: I like ○○. A: (メモする。) A: What animal do you like? B: I like ○○. A: (メモする。) A: What sport do you like? B: I like ○○. A: (メモする。) A: Thank you! B: You're welcome.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> プロフィールカードを集める。 	<p>○プロフィールカードの記入は英語でも日本語でも良い。</p> <p>◆好きなものについて、積極的に尋ねたり、相手の質問に対して正しく答えたりできる。 (行動観察)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> できたプロフィールカードを使って、Who am I? 「私は誰でしょう」ゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 出題する。 	<ul style="list-style-type: none"> プロフィールカードの4つの項目に何があったか、考えさせる。 慣れてきたら児童同士でやらせてもよい。 授業で扱わなかったプロフィールカードを含め、カードは後日教室に掲示する。
	<p>出題方法</p> <p>1、担任は1枚プロフィールカードを選ぶ。</p> <p>2、児童に“What~do you like?”と質問させながら、プロフィールカードに書かれた好きな物を担任が答える。</p> <p>I like ~ (animal). I like ~ (fruit).</p> <p>I like ~ (TV). I like ~ (sport).</p> <p>2、児童に4つのヒントをしっかりと聞かせてから、誰のプロフィールかを当てさせる。</p>		
振り 返り (3)	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりカードを書く。 発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりカードを配る。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きなものについて、積極的に尋ねたり、相手の質問に対して正しく答えたりできる。 <p>(振り返りカード)</p>
挨拶 (2)	<ul style="list-style-type: none"> あいさつをする 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつをする。 	

(5) 成果と課題

① 「見通し」

指導の流れを明確にした指導案の作成

【成果】外国語支援員が中心の授業ではなく、学級担任が進めやすい指導計画が立てられた。学年の教員とも学年会の時間に授業の進め方を確認できた。指導案に明記した対話例を基に各学級担任の先生も授業の中で、英語の「キーセンテンス」を使う時間が多くなった。

【課題】英語の「キーセンテンス」をたくさん聞かせる授業とまではいかなかった。全ての先生が『一人で外国語活動の授業をしていく』と意識するにはまだ時間がかかりそうである。

② 「目的の明確化」 言葉で人とつながることが楽しいと感じる活動の工夫

【成果】凶形は算数の教具を使ったりすることで、他教科と関連させることもできた。英語を単語でなく、センテンスで発言できる児童が増えた。

【課題】毎回の活動で目的を考えることは難しい。たくさんの実践例を参考にしながら、授業の展開を考えていくべきである。

③ 「振り返り」 児童生徒の学びに寄り添うための工夫

【成果】毎時間、この振り返りをするすることで、一人一人が一時間の授業で、何を学べたのか児童自身がわかったようである。また、教師も児童の学びを把握することができた。

【課題】毎時間、コメントの振り返りを書くことは、時間もかかるので、授業時間内で記入し終わるように意識、工夫しなくてはならない。

「振り返り」

毎時間、やったことを明確にする「振り返りカード」

振り返りカード

Grade5 class () No. () Name ()

単元名 Lesson 5 What do you like?!

単元の目標 好きなものについて聞いたり答えたりしよう!

	授業の目標	「わかったこと」や「できるようになったこと」
1.	色を表す英語を知ろう。	
2.	形を表す英語を知ろう。	
3.	動や形、好きなものは何かを英語で聞いてみよう。	
4.	好きなものについて英語で聞いたり答えたりしよう。	
まとめ		

2 第2学年 外国語活動学習指導案・・・第5学年の指導につながるよう作成した。

(1) 目標

色を表す英単語に慣れ親しみ、色を表す英単語を積極的に使っている。

(2) 評価

色を表す英単語を積極的に使って答えている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(3) 展開

過程 (分)	児童の活動	担任の活動	○指導上の留意点 ◎教材・教具 ◆評価
挨拶 (1)	・あいさつをする ・天気の確認	・あいさつをする。 ・天気を確認する。	○元気よくあいさつをする。
導入 (15)	・英語のラジオ体操を聞きながらラジオ体操を行う。	・児童と一緒にやる。	○リズムの数字を英語で言うようにさせる。 ○英語を学習する雰囲気づくりを意識する。
	・前時の内容を思い出す。 ・国旗の絵本の色を英語で答える。	・国旗の絵本を見せながら色を表す英単語を思い出させる。 ・繰り返し色を表す英単語を聞かせる。	◎国旗の絵本 ○少しずつ色が多い国旗にしたり、数秒見せてから隠して色を答えさせたりする。 ○児童を本の周りに集めて、遠くにいる児童も絵が見えるようにする。 ○先に国名を言って、何色があるか答えさせてもよい。
	・色遊びをする。	・教師が言った色の服を着ている人に集まる。 ・全員立たせ、教師が言った色が服の中にある児童を座らせる。	○複数の色を言ってもよい。 ○教室にある物を使って、集まらせてもよい。
展開 (25)	・今日のめあてを知る。 ・万国旗作りをする。 ・必要な色を隣の児童に借りる	・今日のめあてを伝える。 いろいろ色を集めよう。 ○国旗と何も書いていない紙を配る。 ○クーピーを交換させる。 ○できた児童の国旗をホワイトボードに掲示する。	○自分のクーピーと相手のクーピーを交換して、色を塗るときは「～ please.」で色を相手から借りる。
振り返り (3)	・ふりかえりカードを書く。 ・発表する。	・ふりかえりカードを配る。	◆色を表す英単語を積極的に使って答えている。 〈振り返りカード〉
挨拶 (1)	・あいさつをする	・あいさつをする。	○元気よく挨拶する。

目的の明確化
・他教科との関連付け、活動の必然性

見通し

- ・指導過程を区切ることによる内容の明確化
- ・指導上の留意点の詳細化
- ・どの担任でも共通で使える教材教具の活用

振り返り

(4) 高学年と低学年の関連性

高学年の授業を基に、低学年の授業を縦のつながりを意識して指導計画を作成した。

5年生

2年生

時	目標	活動	使用表現・語彙	時	目標	活動	使用表現・語彙
1	色と形を表す英単語に慣れ親しみ、日本語と英語の音の違いに気付く。	・あいさつ ・DVDを見る ・チャンツ・色の単語 TWISTER ・インタビュー	I like~. 色 (red, blue, yellow, pink, orange, green, purple)	1	色を表す英単語に慣れ親しみ、日本語と英語の音の違いに気付く。	・あいさつ ・チャンツ ・DVDを見る ・色の単語 ・色を使ったフルーツバスケット	色 (red, blue, yellow, pink, orange, green, purple)
<p>高学年で学習する単元の一部を低学年でも扱う。</p>							
2	色と形を表す英単語に慣れ親しみ、日本語と英語の音の違いに気付く。	・あいさつ・チャンツ 色形カルタ ・インタビュー	形 (circle, triangle, diamond, star, heart,	2	色を表す英単語に慣れ親しみ、色を表す英単語を使って答えてい	・あいさつ ・チャンツ カルタを使ったカードゲーム	色 (red, blue, yellow, pink, orange, green, purple) I like~.
<p>高学年で使用した教材教具を低学年でも使えるようにした。</p>							
3	色や形、好きな物は何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。	・あいさつ・チャンツ T-shirts作り	What color do you like? What shape do you like? (How many ~?)	3	色を表す英単語に慣れ親しみ、色を表す英単語を積極的に使っている。	・あいさつ ・英語のラジオ体操 色遊び 万国旗作り	色 (red, blue, yellow, pink, orange, green, purple) ~ please.
4	好きなものについて、尋ねたり答えたりできる。	・あいさつ・チャンツ T-shirtsクイズ プロフィールカード作り Who am I? ゲーム	What fruit do you like? What sport do you like? What animal do you like? What TV do you like?	<p>高学年で行ったアクティビティを低学年でも行えるように簡易化した。</p>			



(5) 成果と課題

【成果】単元名や授業の目標を明記することで、児童が授業で何を学び、どんなことに向かって学習していくかが明確になった。また、授業で学習している「色」を意識させるために自己評価の部分ではマークに色を塗らせることでより学習意欲を高めさせることができた。

【課題】2年生という発達段階を考えると、記入事項が多く時間がかかってしまったように感じた。それぞれの学年や発達段階に応じた内容の精選が必要である。

参考：振り返りカードの工夫

Grade2 class() No.() Name()

ふりかえりカード

たん元名 Color

たん元の目ひょう 色をあらわすことばをえい語で言ってみよう！

	じゆぎょうの目ひょう	よくできた	できた	もう少し	「わかった」「できるよ」
1	色をあらわす えい語を知ろう。	😊	😊	😞	
2	色をあらわすえい語 をつかってみよう。	😊	😊	😞	
3		😊	😊	😞	
まとめ					



英語でラジオ体操

・単元名や授業の目標の明記
・マークに「色」を塗らせる
ことによる授業内容との
関連、意欲の向上化

3 第6学年 外国語活動学習指導案

(1) 単元名 Hi, friends!2 Lesson5 Let's go to Italy

(2) 単元の目標

- ①積極的に自分のしたいことについて伝えたり、友達の考えを聞いたりしようとする。
- ②したいことについて尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。
- ③世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気づく。

(3) 単元の計画 (4時間扱い)

「見通し」
時間の流れをパターン化することで、どの担任が見ても毎時間の授業のイメージが持ちやすい。
【本単元での例】
・歌 ・国クイズ
・「～したい」のやり取り

時	目標	1, 2時はインプット中心の授業 3, 4時はアウトプットにつなげる授業	使用表現・語彙	評価			
				コ	慣	気	評価規準<方法>
1	世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。【インプット】	・あいさつ 歌 ・国クイズをする。 ・DVD (えいごリア) を見る。	Where is this? What is this?			○	世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付いている
2 本時	行きたい場所を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。【インプット】	・あいさつ ・DVD ・国クイズをする。	I want to go to~.				★他の表現でも応用のきくシンプルな活動を取り入れることで、教師も子どもも活動が理解しやすく簡潔な指示で済む。<行動観察>

		・世界旅行で行きたい国を答える。				
3	見たいものについて尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。【インプット】	・あいさつ 歌 ・国クイズをする。 ・世界旅行で見たいものを答える。	Where is this? What do you want to see? I want to see ~.		○	見たいものについて答えている。<行動観察>
4	食べたいものについて尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。積極的に、自分のしたいことについて伝えたり、友達の考えを聞いたりしようとする。 【インプット】から 【アウトプット】	・あいさつ 歌 ・国クイズをする。 ・世界旅行で食べたい物を答える。 ・自分が行きたい国、見たいもの、食べたいものを紹介する。	Where is this? What do you want to eat? I want to eat ~.		○	食べたい物について答えている <行動観察ワークシート> 積極的に自分のしたいことについて伝えたり、友達の考えを聞いたりしている。 <行動観察・振り返りカード>

(4) 本時のねらい

行きたい国について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

(5) 本時の展開 (第2時/4時間)

過程 (時間)	児童の活動	担任の活動	○指導上の留意点 ◎教材・教具 ◆評価
挨拶 (3)	・あいさつをする。 H: Let's start the English lesson. Hello, everyone. How are you?	S: Hello, Ms._____. S: I'm fine, thank you.	○気持ちよい挨拶をする。 ○英語の雰囲気をつくる。
	・天気と曜日等の確認をする。 H: How is the weather today? H: What day is it today? H: What is the date today?	S: It's sunny. S: It's Thursday. S: It's November 25 th .	
導入 (17)	・歌を歌う。 ○英語らしい音の流れを聞かせることを目的とする。	・児童と一緒に歌う。	○英語の学習への切り替えとして取り入れる。
	・ページ探しゲームをする。 H:I can see a/some ~. (3個ぐらいを繰り返す) H: What can you see? S:~. H:You can see~.	・ページのヒントを言う。 そのページにある物を使って○○な物は何かと聞く。 例: プレゼントされたい物 高級そうな物	○聞くことに意識を向けさせる。 ○子どもの反応を拾い、日本語から英語、複数形に言い換えなどをする。 ○児童の多様な答えを出させることで、物の名称に自然と触れさせるようにする。 ◎ワードブック
	・物のイメージを言う。 ・DVDを視聴する。 「トコトコストリート」 ・今日のめあてを知る。 私はスペイン。あなたはどこ？	・教材を操作する。 ・内容を確認する。 ・今日のめあてを伝える。	○Where do you want to go? I want to go to ~.を聞かせる。 ○何が聞こえたではなく、どんな流れだったかを聞くようにする。 ◎デジタル教材

「目的の明確化」 : めあての表現を工夫することで、外国語活動で重要な「類推する」ことを奪わずに本時のめあてを示すことが可能である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・国クイズをする。 ・ヒントから国を類推する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">Where is this?</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒント（国旗の特徴）を出して問題を出す。 ・国名を繰り返し言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒントを聞き、類推する力を大事にする。 ○既習事項（形・色）を取り入れるようにする。 ○国名を紹介するための活動とし、テンポよく進める。 ◎地図帳、国旗カード
展開 (20)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界6か国から行きたい国を選ぶ。 <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin: 10px 0;">「目的の明確化」：英語で活動する必然性を作り出す。</div> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin: 10px 0;">★他教科との関連 本单元では5年生の社会科や総合的な学習の時間を活かしていく。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・行きたい国を答える 	<ul style="list-style-type: none"> ・声がけしながら机間巡視する。 <ul style="list-style-type: none"> ・行きたい国を聞いていく。 ・全員立たせて質問し、自分の行きたい国が言われたら座らせ、数人残った所で個別に聞いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場面設定を行う ○国を決められない子には国旗のかわつこよさや響き、知っている情報等で選んでよいことを知らせる。 ○質問は担任が行い、児童は質問とそれに対する答え方を何度も聞くことが主となる活動にする。 ◆行きたい国はどこかを尋ねたり答えたりする表現の活動に参加している。〈行動観察〉 ◎ワークシート
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>H:1番に行きたいところはどこ？</p> <p>H:I want to go to Spain. Who wants to go to Spain?</p> <p>Oh, you want to go to Spain. I want to go to Spain, too.</p> <p>Please sit down. . . .</p> <p>残った数人に</p> <p>H:Where do you want to go? S: I want to go to Egypt.</p> <p>H:Oh, you want to go to Egypt. Please sit down.</p> </div>		<div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin: 10px 0;">「見通し」 指導案に教師が話す英語、具体的なやりとりの流れを記すことで、<u>どの担任が見ても授業のイメージが持ちやすく、発話する英語がわかりやすくする。</u></div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;">★1時間に担任が話す英語を絞り、キーセンテンスを何度も丁寧に聞かせるようにする。</div>
	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のキーセンテンス1つだけ書く。★教科化に向けての取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・1文選ばせ、なぞらせる。 	
振り返り (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返る。 <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin: 10px 0;">「振り返り」 1時間の学びを書かせることで、児童自身が「できた」と実感することができる。この意欲が次時の学びにつながる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに沿ってできたかを確認する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・歌をうたう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と一緒に歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語の学習を終わりにする切り替えとして、導入と同じ歌にする。
挨拶 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>H: That's all for the English lesson. S: Thank you, Ms. _____.</p> <p>You're welcome.</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> ○気持ちのよい挨拶をする。

★児童の“振り返りカード”から

- ・絵を見たときにチュロスがおいしそうだと思い、スペインに行きたくなった。
- ・自分の行きたい所（サグラダファミリアとか）に大人になったら行ってみたいと思った。
- ・自分が行きたい国をどうやって言うかがわかった。



- ・ どの国に行きたいかを考えるのが楽しかった。一番カナダに行きたいと思った。
- ・ みんな行きたい所が違っておもしろかった。みんないろんなところに行きたいんだなと思った。
- ・ 私はオーストラリアに行ってみよう。今日の外国語は、世界に行ったみたい気分になった。
- ・ 行きたい所で何をしたいか言えるようになった。
- ・ I want to go to アメリカです。先生とやりとりしているうちに本当に行きたくなってきた。
- ・ どの国の食べ物も食べてみたい。
- ・ 食べたいものを言うのが簡単だった。
- ・ I want to eat チュロス and Tim Tam.
- ・ 最後のトコトコのビデオは、トコトコが変なことを言っているのがわかった。

(6) 成果と課題

① 「見通し」：指導の流れを明確にした指導案の作成

【成果】

- ・ 1時間の流れがおおよそ固定されるので、教師も子どもも見通しが持ちやすい。
- ・ 本時で使う英語を選ぶことにより、担任も英語を使いやすい。また、教師がキーセンテンスに絞って発話することで、児童が今日何を学ぶのかが明確になる。
- ・ インプットを丁寧に扱うことで、発話のための一斉練習がなくても、自然とアウトプットにつながる。第4時のアウトプットの活動では、37人中33人の児童が教師の助言なしに自分の行きたい所や食べたいものを発話することができた。

【課題】

- ・ 単元の特性によるが、毎時間の指導をパターン化することにより飽きがくるのではないか。
- ・ インプットの際には児童をひきつけ、児童が頭の中でリハーサルを行えるような「聞く」必然性があるよう工夫が必要である。
- ・ 教師の英語での発話が多くなるので、使用する英語（英文）を絞ったとしても、英語を話すことが苦手な教師にとっては負担を感じるかもしれない。

② 「目的の明確化」：言葉で人とつながることが楽しいと感じる活動の工夫

【成果】

- ・ 不自然な英語を用いた活動や、ゲームを楽しむことが主となっていた外国語活動の授業から脱却できた。
- ・ ゲームの準備が必要ないので、教師の授業準備の時間が短縮される。
- ・ 他の教科、教科外の既習事項を使うことで、児童の学びのレベルが深まり広がる。

【課題】

- ・ アウトプットの活動の工夫が難しい。単元計画の4時間のうち、徐々にアウトプットを増やしていく指導手順で本当にいいのか。

③ 「振り返り」：児童生徒の学びに寄り添うための工夫

【成果】

- ・ めあてを児童が類推するようなものにしたが、児童の振り返りカードを確認すると、本時の意図を児童がとらえることができていた。

【課題】

- ・ 児童自身が授業や単元を通して「できた」と実感でき、次の意欲や学びにつながるようにまとめを書かせる工夫が必要である。